

委員会名	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業 泉南	施設長	松尾 好記	印
	第 17 回介護医療連携推進会議 議事録	管理者	徳永 公江	印
		書記	清水 健二	印
開催日時	令和 7 年 (2025 年) 9 月 16 日 (火) 10:00~11:00			
開催場所	泉南医療福祉センター 2 階 応接室			
出席者	松尾好記（施設長、新泉南病院 院長） 藤原慶子、三澤律子（泉南市健康福祉部長寿社会推進課） 牧野彰一（民生委員長） 田口義彦（シルバーハウジング会長） 田中知子（地区福祉委員長） 佐藤剛（泉南市地域包括支援センターなでしこりんくう主任） 徳永公江（管理者） 畑原智子（計画作責任者） 清水健二（書記）			
欠席者		議事録確認 サイン		
討 議 内 容				
<開会のあいさつ> (各参加者) ・参加者全員の自己紹介。今年度より松尾施設長が着任。 <実績報告> (清水健二) ・介護スタッフは昨年度から、4 名体制となっているが、人員不足により補充が難しい状況が続いている。 利用登録に関しては、終了 17 件に対して新規 16 件と 1 件下回っている。平均介護度は、介護のみの場合は要介護 1 及び要介護 3 の割合が高い傾向である。要介護 4~5 に関しては、ターミナル期の登録が多く、短期で利用終了となるケースが多かった。 訪問件数は、ターミナル期や重度の登録者の有無により、件数が大きく増減する。 相談元は 86.2%が居宅介護支援事業所と、年々増加傾向にある。一度利用されたケアマネは、比較的にリピート利用されることが多い。 【ご意見】 ・特に無し <事例検討> (畑原智子) 対象者：Y 様（女性・要介護 1・独居・86 歳） ・利用経緯：2024 年秋に自宅で倒れ緊急搬送。退院後、定期巡回・訪問介護・訪問看護を導入。 ・主な支援：安否確認、服薬・食事提供、弁当配食（平日）、ごみ出し、空調調整。看護は週 1 回。 ・状況と課題： - 強い拒否あり、初期は自宅に入れず。徐々に馴染み関係を形成し、受け入れ進む。 - 入浴・理美容拒否強く、衛生面課題。食器洗浄なども拒否、介護員が強引に対応。 - 精神的に不安定（うつ傾向）、成年後見制度に連携済み。 - 在宅医と繋がり、現在は看護師も定期訪問。服薬は毎日確認可能に。 - 生活環境のリスク（ガス、火災等）あり、地域・民生委員との協働見守りが必要。 - 男性スタッフや外部ドライバーとの接点がきっかけで身だしなみに改善。→ 今後、入浴や外出支援に繋げる工夫が必要。				

<ICT 活用による業務効率化と安全性の向上>

(清水健二)

1. 背景と目的

- ・ 訪問介護・看護においては、夜間巡回の負担・人員不足・利用者からの緊急コール対応 が大きな課題。
- ・ 「防災・BCP」に続き、業務効率化・安全性強化・利用者満足度向上 を目指した取り組みが必要。
- ・ 国の補助金制度（テクノロジー導入補助金）を活用し、現場に ICT を導入する好機。

2. 導入予定システム（QuaLink）の概要

- ・ 直感的操作の通話機能（自動受話・簡単ビデオ通話）
- ・ 通知・呼出管理（一斉発信／順次発信、応答状況ログ）
- ・ 見守り AI 機能（夜間巡回の負担軽減、離脱防止）
- ・ インカム機能による職員間連携の円滑化
- ・ テキスト送信機能による服薬リマインドやお知らせ配信
- ・ 外部システム連携（介護記録ソフト SmaCare との自動連動）

3. 導入による効果（試算例）

- ・ ナースコール訪問対応：約 40%削減
- ・ 夜間巡回業務：約 10%削減／日
- ・ 人件費削減効果：月 45,000 円程度（規模により変動）
- ・ 利用者の安全性向上（緊急対応スピード改善、見守り強化）

4. 今後の進め方

1. 来年度の介護テクノロジー導入支援補助金への申請準備
2. 導入前のトライアル実施（モデルケースの選定）
3. 効果検証（対応スピード・業務負担・利用者満足度）
4. 本格導入の可否を再検討

<その他>

- ・ 泉南市「認知症条例」（2025 年 4 月 1 日施行）の紹介 （泉南市役所 三澤氏）
 - 制定記念シンポジウム：2025 年 10 月 4 日（土）14:00～16:00 @あいびあ泉南大会議室
 - 定員 100 名（関係者枠 50 名、一般枠 50 名・事前予約制）
 - 参加者には「オレンジリング」を配布予定

<次回開催予定日>

- ・ 令和 7 年（2025 年）3 月 17 日（火）10:00～11:00 泉南医療福祉センター 2 階応接室（仮）